

はじめに

札幌市衛生研究所は、昭和37年4月に現在地に札幌市衛生試験所として開設され、市民の健康と快適な暮らしを守るための行政を科学的に支える役割を果たしてきました。しかし、近年社会的、経済的な状況が著しく変化し、研究所の役割は増々重要になってきております。

このような状況の中にあつて、科学技術の高度化に対応し、住民の暮らしを守る研究活動を進めていくうえにおいて、現在の合同庁舎内での研究所は極めて狭少で、日常の研究活動に支障が生じつつあります。

このため数年来、研究所のあるべき姿について検討を行い、所内外の理解を深め、それに基づいて、札幌市衛生研究所新庁舎建設計画案を、希望と期待を持って進めているところであります。

私達は、より一層住民の期待に沿うよう試験検査、調査研究の充実をはかつていく所存ですので、所員全ての最大の願いである、衛生研究所新庁舎建設に関して、今後とも、今迄にまして皆様方のご理解とご協力をいただきたく、その実現の一日も早からんことを願う次第です。

昭和52年度の業務の主なるものを振り返ると、4月より先天性代謝異常フェニールケトン尿症のマス・スクリーニングを地方自治体としては、全国に先がけて実施し、10月からはさらに5種目にふやして札幌市で生れた新生児全員の検査を行なっております。このマス・スクリーニングによって52年度中に1例の先天性代謝異常が発見され、早期発見、早期治療によって期待通りの効果をあげております。

私達は、衛生行政のなかにおける札幌市衛生研究所の位置づけを十分に認識し、健康で住みよい生活環境実現のため、今後ともたゆまぬ努力を続けていく所存であります。

本年報は、当研究所の運営、業務、研究の実績と参考資料を加えて編集しました。この小冊子が、いささかなりとも関係者の方々に役立つことがあれば望外のよろこびであります。

昭和53年10月

札幌市衛生研究所長

高 杉 信 男